



# 海を越えた交流

## 米国テメキュラ市ホームステイ研修

人材育成事業の一環として旧中山町が平成6年から交流を続けている米国カリフォルニア州テメキュラ市に、11月28日から9日間の日程で、後藤史朗団長（御来屋）ほか5人が訪問しました。そのうち一般公募で参加された方2人の感想文を紹介します。

### 文化の違いを理解して

#### 後藤 史朗（御来屋3区）

2007年11月28日、午前9時10分に米子空港を飛び立った時から、私たちの意義深いホームステイ研修が始まりました。

ただ、事前の打合せなどはあったものの、当初は不安をなかなか打ち消す事は出来ませんでした。しかし、終わってみれば初めての体験や楽しい出来事の連続で、良い思い出ばかりが残った研修となったのです。

ロサンゼルスに到着した時の第一印象は、アメリカでは何でも「大きくて広い」と感じたことです。体格が良く、とても

太った人たちが多く、自動車も

日本国内より一回りも二回りも大きく、その車にトヨタ、ホンダのマークがついている不可思議さ、ステークの大きさ、大量の生野菜のサラダなど、本当に圧倒されました。もちろん、見た目だけではありません。

僅か5日間のホームステイでしたが、テメキュラ市のホストファミリーの方々の心の広さや大きさを感じ、優しく暖かいもてなしを受けて本当にハッピーでした。

今回の研修を通じて、国境を越えた友情や交流は、お互いの文化や習慣の違いを理解して



高齢者の施設でどじょうすくいを披露（前列右から2番目が後藤さん）



### 若い人の参加を

#### 当別当 弘貴（東横）

このたびの研修で、人の集まる、住み良い町を造る様々な努力と工夫を知りました。建物、街並みに統一感を持たせ、景観にとっても配慮しており、実際に計画的に町造りが行われていると思います。

イベントの企画・運営にボランティアが多数参加し、街のアピールや利益を出す事を良く考えています。教育機関の視察では、学校長は大きな権限があり、という気持ちが芽生えた研修で学校に独自性が生まれる理由がわかりました。親と学校が一体となって教育に当たっている点もあつきました。交流を通じて体験・経験があり、特に若い人がもつこの研修に参加することを望みます。



みんなですきやきソングを歌いました（左端が当別当さん）



市章の前で